

3)初発の5大癌のUICC病期分類ならびに再発患者数

3) 初発の5大癌のUICC病期分類ならびに再発患者数								
5大癌	Stage I	Stage II	Stage III	Stage IV	不明	再発	病期分類基準	版数
胃癌	35	11	8	13	2	6	1	7,8
大腸癌	33	31	43	33	34	13	1	7,8
乳癌	44	16	11	4	4	26	1	7,8
肺癌	19	5	53	102	2	13	1	7,8
肝癌	9	8	9	2	2	12	1	7,8

※ 1:UICC TNM分類, 2:癌取り扱い規約

5大癌とは、日本でもっとも罹患率の高いとされる胃癌、大腸癌、肝臓癌、肺癌、乳癌の事をいいます。5大癌について入院治療を行った、初発、再発の延べ患者数を示しています。当院において、癌の診断、初回治療を行った場合を「初発」として病期分類ごとに集計し、初回治療が完了した後に局所再発・再燃または新たな遠隔転移をきたした場合を「再発」として集計しています。UICC病期分類とは、癌がどれくらい進行しているのかという病期・進行度を意味し、Stage 0期からI～IV期に分類していますが、0期は集計対象外となっています。

患者数では、肺癌がもっとも多く、次いで大腸癌、乳癌となっています。特に肺癌、大腸癌のステージⅢ、Ⅳの割合も高い数値となっていますが、同一患者が化学療法で繰り返し入院する場合はそれぞれカウントされている事が影響しています。

一方、胃癌でI期の割合が高く、大腸癌では今回集計されていない0期の患者数も多くなっているのは、消化器内科の「早期悪性腫瘍粘膜下層剥離術」の専門医がおり、がんの早期診断・早期治療に積極的に取り組んでいることが影響していると推測されます。また乳癌でI期の割合が高くなっているのは、地域がん診療連携拠点病院として近隣のクリニックと連携をし、放射線治療の患者様を多く受け入れていることが影響していると考えられます。

当院では早期から進行・再発癌まで、その進行度に合わせ、内視鏡治療、腹腔鏡手術など低侵襲治療から、他臓器合併切除手術、抗がん剤治療、放射線治療まで、患者さんに合わせた集学的治療を実地しています。